

## 福田尚代 あわいのほとり Naoyo Fukuda: At the Threshold's Edge

2026年2月21日（土）-5月17日（日）

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館



福田尚代《漂着物／ひとすくい／泉》より  
2024-2026年 消しゴムに彫刻 作家蔵  
撮影：高橋健治

美術家・福田尚代（ふくだ・なおよ／1967-）は、「世界は言葉でできている」という独自の思索を、言葉と美術によって探求してきました。創作の根幹にある言葉との出会いは幼少期に遡り、本のページに並ぶ文字の組み合わせがひとつ変わるだけで、別な景色が生まれるその移ろいに魅了されたといいます。そこから言葉を小さな「粒子」として捉え、ひとつひとつの言葉を分解し、並び替えることで未知の世界に触れる手がかりを見いだします。

始めからも終わりからも同じ文字列で読める「回文」を意識し始めたのは、東京藝術大学に在学の頃で、同大学院修了後、1994年から約6年間のアメリカ滞在を経て本格的に手がけていきます。これまでに発表した回文集は、『ひかり埃のきみ』（2016年、平凡社）、『わたしたち、言葉になって帰ってくる』（2020年、私家版）など10冊余を数えます。

福田はこうした言葉の表現と併行して、造形制作においても独自の個性を発揮してきました。本や葉ひも、手紙、鉛筆、消しゴムなど、いずれも言葉に関わり、人の手に触れられた記憶を宿す物を素材に彫刻を施します。削り、折り、切り抜き、ほどこき、糸で縫い、針穴を穿たれた物たちは元々の姿を失い、やがて小さな「粒子」となって消えゆくかのようです。こうした存在のはかなさ——生と死の「あらい」に光をあててきた福田の制作は、「アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち」（国立新美術館、2010年）や「フラグメント—未完のはじまり」（東京都現代美術館、2014年）をはじめ、近年では「ふたつのまどか—コレクション×5人の作家たち」（DIC川村記念美術館、2020年）、「雰囲気のかたち—見えないもの、形のないもの、そしてここにあるもの」（うらわ美術館、2022年）、「旅と想像／創造 いつかあなたの旅になる」（東京都庭園美術館、2022年）などのグループ展を通して高く評価されています。

本展は、初期から新作に至る主要な作品によって福田の創作を紹介するとともに、会場の空間を取り込んだインスタレーションによって構成する画期的な個展となります。

## 展覧会のみどころ

### 1. 福田の初期から新作を展覧

初期から新作を含む主要な作品と併せて、書き下ろしの回文により、美術と言葉を往還する福田の創作世界を紹介します。

### 2. 福田の作品と回文によるインスタレーション

美術館の展示空間を取り込んだインスタレーションをお楽しみいただけます。とりわけ、近年、作家が関心を寄せている「あわい」をテーマにしたインスタレーション《漂着物／ひとすくい》や《漂着物／波打ち際》を展覧します。

## 福田尚代 略歴

1967年埼玉県生まれ。1992年東京藝術大学大学院修了。1994年から2000年まで、アメリカ滞在。現在、埼玉県在住。

主な個展に、2012年「福田尚代展 あなたの船の往くところに」（横浜市民ギャラリーあざみ野／神奈川）、2013年「福田尚代 慈雨 百合 粒子」（小出由紀子事務所／東京）、2016年「コレクション 福田尚代 言葉の在り処、その存在」（うらわ美術館／埼玉）、2024年「ひとすくい」（Kanda & Oliveira／千葉）、2025年「福田尚代 日な曇り」（YOKOTA TOKYO／東京）。グループ展に、2010年「アーティスト・ファイル 2010—現代の作家たち」（国立新美術館／東京）、2014年「MOTアニュアル 2014：フラグメント—未完のはじまり」（東京都現代美術館／東京）、2020年「開館30周年記念展：ふたつのまどか—コレクション×5人の作家たち」（DIC川村記念美術館／千葉）、2022年「雰囲気のかたち—見えないもの、形のないもの、そしてここにあるもの」（うらわ美術館／埼玉）、2022年「旅と想像／創造 いつかあなたの旅になる」（東京都庭園美術館／東京）など。

## 開催概要

展覧会名：福田尚代 あわいのほitori

主催：神奈川県立近代美術館

担当学芸員：朝木由香、高嶋雄一郎

会期：2026年2月21日（土）－5月17日（日）

会場：神奈川県立近代美術館 鎌倉別館

開館時間：午前9時30分－午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：月曜日（2月23日、5月4日を除く）

観覧料：一般700（600）円／20歳未満・学生550（450）円／65歳以上350円／高校生100円

- ・（）内は20名以上の団体料金です。
- ・中学生以下の方と障害者手帳等、ミライロIDをご提示の方（および介助者原則1名）は無料です。ミライロIDについて、通信環境等の影響によりタブレット端末等の画面で必要な情報が確認できない場合は、原本のご提示をお願いすることがあります。
- ・ファミリー・コミュニケーションの日（毎月第1日曜日：3月1日、4月5日、5月3日）は、18歳未満のお子様連れのご家族は割引料金（65歳以上の方を除く）でご覧いただけます。また同日は会話を楽しむ日「オープン・コミュニケーション・デー」となりますので、小さなお子様連れの方も遠慮なくご覧ください。
- ・その他の割引につきましてはお問い合わせください。
- ・最新情報と来館に際してのお願いは美術館ウェブサイト等をご確認ください。

## 関連企画

アーティストによるギャラリートーク

\* イベントの詳細情報は当館ウェブサイトでお知らせします。

担当学芸員によるギャラリートーク

日時：3月7日（土）、4月4日（土）、5月2日（土） 各回午後2時－午後2時30分

会場：鎌倉別館 展示室

\* 申込不要、無料（ただし高校生以上の方は当日の観覧券が必要です。）

その他の関連企画については、美術館ウェブサイトをご確認ください。

## お問合せ先

広報担当：永井、太田原、加藤、葉山

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館

Tel: 0467-22-5000 Fax: 0467-23-2464

E-mail: info.kinbi.474@pref.kanagawa.lg.jp

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-8-1

<https://www.moma.pref.kanagawa.jp/>

## 同時開催の展覧会

葉山館

－2026年2月23日（月・祝）

企画展「若江漢字とヨーゼフ・ボイス 撮影されたボイスの記録、そして共振」

コレクション展「没後10年 江見絹子—1962年のヴェネチア・ビエンナーレ出品作品を中心に—」

2026年3月7日（土）－2026年5月31日（日）

企画展「うちまあんせい内間安理・お俊子展 色を織り、記憶を紡ぐ」

コレクション展「たいせつなものII—近年収蔵の彫刻・立体作品から—」

## 広報用画像データ一覧

本展広報のための画像データ（印刷用350dpi／オンライン用72dpi）をご用意しております。  
ご希望の場合は次の必要事項を明記し、広報担当宛にEメールでお申し込みください。

展覧会名／希望画像アルファベット／データサイズ（350 or 72 dpi）／社名／媒体名／掲載予定日／  
担当者名／連絡先

- A) 福田尚代《漂着物／ひとすくい／泉》より 2024-2026年 消しゴムに彫刻 作家蔵 撮影：高橋健治
- B) 福田尚代《漂着物／ひとすくい／泉》より 2024-2026年 消しゴムに彫刻 作家蔵 撮影：高橋健治
- C) 福田尚代《漂着物／ひとすくい／泉》より 2024-2026年 消しゴムに彫刻 作家蔵 撮影：高橋健治
- D) 福田尚代《翼あるもの／岬より『楽しみと日々』》2022年 頁を折り込まれた書物 作家蔵 撮影：高橋健治
- E) 福田尚代《翼あるもの／岬より『楽しみと日々』ほか》2003-2022年 頁を折り込まれた書物 作家蔵 撮影：高橋健治
- F) 福田尚代《書物の魂#02》2013-2023年 ほぐされた本の葉ひも 東京都現代美術館蔵 撮影：坂田峰夫
- G) 福田尚代《アイスハーケン、そしてアイリス》2018-2024年 脱色されたハンカチに刺繍 個人蔵 撮影：坂田峰夫
- H) 福田尚代《便箋#01／1981年 秋／先輩（巡礼／郵便シリーズより）》2009年 郵便物に刺繍 個人蔵 撮影：上野則宏
- I) 福田尚代《夢ノート／袖の涙／泉#01》2023-2024年 夢ノートに着色（色鉛筆） 個人蔵
- J) 福田尚代《煙の骨》2007-2013年 女性の名前が刻印された色鉛筆の芯の彫刻 うらわ美術館蔵 撮影：大谷一郎
- K) 福田尚代《メッセージカード#02／トランプ（ハートの2）》2025年 メッセージカードに刺繍 作家蔵 撮影：高橋健治

A



B



C



D



E



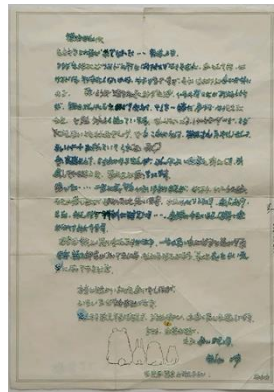
F



G



H



I



J



K

